

令和4年3月

授業の手引〈授業事例編〉  
高等学校 地理歴史科・公民科  
(令和4年度版)

愛知県総合教育センター





- 1 はじめに
- 2 研究員名簿
- 3 研究概要
- 4 授業事例
  - (1) 地理総合
    - 事例1：単元名「居住地の地域的課題とその解決策の構想」
    - 事例2：単元名「歴史資料を導入とした地理情報システム（GIS）の活用」
  - (2) 歴史総合
    - 事例3：単元名「恐慌の時代と軍部の台頭」
    - 事例4：単元名「19世紀後半～20世紀前半の日系アメリカ人～移民・統合と分化～」
    - 事例5：単元名「経済危機と第二次世界大戦」
    - 事例6：単元名「修学旅行事前平和学習」
    - 事例7：単元名「近代国家の形成」
    - 事例8：単元名「近代化と私たち―産業革命と市民革命―」
    - 事例9：単元名「第一次世界大戦がもたらしたもの」
  - (3) 公共
    - 事例10：単元名「持続可能な社会を目指して」
    - 事例11：単元名「財政の役割と持続可能な社会保障制度」
    - 事例12：単元名「政治参加と民主政治の課題」
    - 事例13：単元名「政治参加と公正な世論の形成」
    - 事例14：単元名「公共的な空間における人間としての在り方生き方」

## 新学習指導要領の趣旨を踏まえた地理歴史科・公民科の授業の在り方の研究

### －発問と資料提示を軸にした授業実践と学習評価の検討－

愛知県立横須賀高等学校長 蟹江 吉弘

来年度(令和4年度)から年次進行で実施される新しい学習指導要領では、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が重視され、学校現場には、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じて、「生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性」等の新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実が求められています。

地理歴史科及び公民科では「地理総合」「歴史総合」「公共」の必修科目と、そこで学んだ資質・能力を生かして、より広く深く探究する「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「倫理」「政治・経済」の選択科目が設定されました。我々は改訂された科目の目標や内容を理解し、育成すべき資質・能力を明確化して日々の学習指導に精励するとともに、現行の学習指導要領でも課題とされてきた「主体的に社会の形成に参画しようとする態度の育成」「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成」「課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業の充実」について一層取り組まなければなりません。

さて、令和3年度の本研究班では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の在り方を追究し、その成果を県立高等学校に発信することを目的とし、これまでの研究成果の上に「問い(発問)と資料提示を軸にした単元構想及び授業実践案の作成」と「単元における学習評価の検討」とを研究テーマとして研究協議会を重ねてきました。生徒が思考を活性化させ、「見方・考え方」を深めることのできるような良質の問いは、生徒のなかに新たな問いを生み出し、生徒自らが問いを立てて探究を始めるきっかけとなります。また発問に対す

る答えを導き出す過程で、効果的に提示される資料は、正しい思考力、判断力の育成の大きな助けとなるでしょう。さらに、日々の学習活動の中で適切な場面を捉えて観点別に学習状況を評価し、定期考査などにおいても適切な評価が可能になれば、生徒の学習意欲を一層喚起できると考えます。

本年度は新学習指導要領で必修科目として設定された「地理総合」「歴史総合」「公共」を意識しつつ、現行科目での授業計画・実践に取り組むという変則的な研究となりましたが、研究員は次年度以降に役立つ資料を作るべく熱心に研究協議を重ねました。実践の手法としてロイロノートを利用したり、タブレットなどのICT機器を積極的に活用したりして「GIGAスクール構想」「個別最適な学び」への対応に取り組んだ研究もあります。

本研究が本県の地理歴史・公民科の授業改善及び評価方法等の参考となれば幸いです。